

三行詩 ～家族のきずな・命の大切さ～ 《3年生その1》

「いってきます」返ってくる「気をつけて」
その会話で感じられる
あたりまえだけど大切な日常

背比べ
弟に負け
背伸びする私

母の声
うるさくていやになる時もあるけれど
一番落ちつく母の声

雨の送迎
車の中で母とけんかし
感謝を伝えらず
帰りにやっと小さく「ありがとう」

私の部屋に遊びに来る父と母
すなおになれず「来ないでよ！」って怒ってしまう ごめんなさい
本当は来てくれるのがうれしいです
なぜかって？ それは時間を一緒に過ごせて笑顔になれるから
これからも来てください

日曜の晩ごはん
家族みんなそろって食べてるときが
わたしの一番の楽しみ

悩みごとがあって泣いていた私を
元気づけてくれたお母さんの力は
偉大です

中3になって気付いた
今までの人生には全て親がいて
元をたどれば親に行くことを
だから感謝はしきれない

外食が減った今
母のごはんが
一番おいしいと気づく

家の中に響く父の「ただいま」
優しい声の「学校どうだった？」
でも私は今までで一度も「疲れた」を聞いたことがない
たまには情けない声で「疲れた」って言ってもいいんだよ

お父さん
その黒いものなに？
たまごやき？！

父の日のプレゼント
どうしてもあげることができなくて
それでも伝えたい 日々の感謝

私の返す言葉は
いつも冷たくそっけないけど
母の言葉はいつも温かく優しい

兄よ 大学生活 初めての一人暮らし 楽しいか？
大変になったら いつでも帰ってこいよ
は！？べ べつにあたしがさびしいからとか そんなんじゃないし！